

## 「産学マッチングF S助成制度」の採択案件について ～ 新たに 1 件の助成を決定 ～

東経連事業化センター（会長・幕田圭一(社)東北経済連合会会長）では、技術シーズの事業化の可能性を調査するF S（フィージビリティ・スタディ）への助成を行っておりますが、このたび、産学マッチング委員会（委員長・高橋四郎東北イノベーションキャピタル(株)取締役）での検討を受け、新たに、1 件の助成を決定しました。これにより、F S助成制度の採択案件は合計 11 件となります。

「産学マッチングF S助成制度」とは、大学等の技術シーズを対象として、事業化の可能性を評価するF S調査のための資金を助成するもので、助成額は、東経連事業化センター、JSTがそれぞれ100万円、合計200万円が上限となります。

本事業は年間10件の助成を目安としており、本年度は4件の助成が決定しております。

今後、産学マッチング委員会では、対象案件に対しF S調査の資金助成を行うほか、事業化に向けた支援を実施してまいります。

今回採択された助成件名の概要は、別紙のとおりです。

なお、産学マッチングF S助成事業は申込を随時受け付けております。

以上

これまでの採択案件（平成 19 年度採択 ～ 、平成 20 年度採択 ～ ）

「ナノカーボンセメント面状発熱体製造技術の開発」

石巻専修大学 亀山教授、(株)ティーアールティー（石巻市）

「手術シミュレーション用口腔内モデルの開発」

東北大学 太田准教授、(有)テクノ・キャスト（大崎市）

「電磁力を利用してネジ山をセラミック粒子分散強化したアルミ製ネジの開発」

東北大学 谷口教授、(株)日本セラテック（仙台市）

「発毛効果を有するカキドオシ・エキスの研究開発」

秋田大学 杉山教授、(株)エーティー・ラボ（秋田市）

「薄地炭素繊維織物とその積層織物の製造技術の開発」

福島県ハイテクプラザ 三浦研究員、齋藤産業（有）（川俣町）

「ガス除去フィルタの開発とその応用」

東北文化学園大学 野崎教授、東スリーエス（株）（仙台市）

「電力需要予測サービスに向けた先進的未來予測プログラムの開発」

岩手大学 伊藤研究員、(有)ザゼンソウ技術開発研究所（盛岡市）

「サケ頭部の未利用部位を高度有効活用した健康で大型の錦鯉の育成技術の開発」

北里大学 森山准教授、(株)丸辰カマスイ（釜石市）山源錦鯉（長岡市）

「体外受精（出生）児のインプリント異常症診断システムの開発」

東北大学 有馬准教授、G&Gサイエンス（株）（福島市）

「新野菜プチヴェールを利用した機能性食品の開発」

新潟薬科大学 西田助教、(株)ブルボン（柏崎市）

## 「産学マッチングFS助成制度」に採択された助成件名の概要

NO.11	高機能めっき皮膜を用いた信頼性の高い電子基板の実用化
代表開発者	三井俊明 山形県工業技術センター 専門研究員
共同開発者	鈴木喜代壽 株式会社スズキハイテック（山形市）代表取締役社長
コーディネーター	中川郁太郎 山形県工業技術センター 研究企画主幹
助成金額	東経連事業化センター：100万円
助成期間	平成21年1月～21年12月
課題概要	<p>近年のはんだ鉛フリー化<sup>1</sup>に伴い、数多く発生している接合不良などの問題を解決する為、はんだの接合強度を向上させる技術を開発するものである。</p> <p>三井研究員は、めっき被膜を改善することによりはんだの接合強度が向上することを確認しており、本事業では、めっき被膜の膜厚最適化等を目指す。</p>

1 従来、電子回路基板などでは、鉛とすずの合金であるはんだ（いわゆる含鉛はんだ）が大量に使用されていた。しかしながら、鉛は人体に有害であり、廃棄された場合に自然環境に対する悪影響が懸念されることから、2006年7月のRoHS指令（電子・電気機器における特定有害物質の使用制限に関するEUの指令）により、EUに輸出される電子機器等への含鉛はんだの使用が禁止された。また、日本、中国など各国でも規制が進んでおり、鉛を含まない『鉛フリーはんだ』への切り替えが進められている。

(参考1)

## 東経連事業化センターの概要

1. 組織名 /東経連事業化センター  
(正式名称:東北地域新規事業化支援センター)
2. 設立目的/東北地域の競争力強化に向けて、マーケティング支援をはじめとする新産業・新規事業の創出支援に東北地域の産学官の総合力を発揮して取り組み、地域イノベーション・システムの強化を図ること。
3. 活動期間/5年間(平成18年4月～平成23年3月)
4. 組織形態/東北7県の企業支援機関、産学官連携機関、大手企業等を会員とする任意団体
5. 活動期間/5年間(平成18年4月～平成23年3月)
6. 活動経費/年間5千万円程度

以上

## 「産学マッチングFS助成制度」の概要

### 1. 目的

本制度は、東経連事業化センターが産学マッチング支援事業で支援する研究シーズ等に対して、「事業化の可能性を的確かつ迅速に評価するための試験等」(FS: フィージビリティ・スタディ)を行い、事業化を推進することを目的とする。本事業を契機に、国等の競争的資金への申請支援も併せて行う。

なお、本事業は、東北地域全体のイノベーション・システム構築に向け、東経連事業化センター、(株)インテリジェント・コスモス研究機構(ICR)、(独)科学技術振興機構(JST)が協力して実施する。

### 2. 申込対象

大学等の研究者、東北7県の企業

### 3. 対象となる技術シーズ

事業化のために可能性試験が必要となっている技術シーズとし、以下を条件とする。

当該シーズの事業化を目指す企業が存在することを基本とする。

当該シーズを導入することで従来製品に比べての優位性を示すデータが存在すること。

事業化に向けて、特許取得済み、または権利化の可能性が高いこと。

### 4. 選考および結果の通知

評価基準( )に基づき審査の上、当センター産学マッチング委員会での評価を経て採択有無を決定する。申込は随時受け付け、採択有無については2ヵ月程度で書面にて回答する。

( ) 評価基準

- 市場ニーズが高いシーズであること
- 事業化の可能性が高いシーズであること
- 新規性・独創性があるシーズであること
- 適切な研究計画で目標達成の可能性が高いこと

### 5. 助成金額

100～200万円

当センター単独での助成金額は原則100万円が上限とする。ただし、原則100万円を上限に、併せてJSTの助成も受けることができる。

### 6. 応募手続き

「東経連事業化センターFS助成申込書」を当センターのホームページ(<http://www.nc-t.jp/>)からダウンロードし、必要事項を記入の上、郵送で提出する。

本申込書をもって併せてJSTからの助成にも申込みすることができる。

以上